

2010 年 11 月 10 日

第 2 回「新しい公共」推進会議 佐野提出資料

政府取り組みに対する「新しい公共」推進会議からの金子座長提案について

素案は「新しい公共」円卓会議が提示したものを極めて簡潔にまとめられており、大筋では異議はありません。お疲れさま、と申し上げたいと思います。

一つだけ用語について提案があります。それは「国民」という言葉についてです。後段で「『市民』セクター」という言葉が出てきますが、「国民」のほかに「市民」という言葉も使われた方がいいと思います。

というのも、「国民」というのは「日本国籍を保持する者」という意味を持つのに対して、「市民」とか「市民社会」という言葉は「国」を超える意味を持ちうる言葉ではないか、と思うからです。成長社会から縮小社会になったいま、日本は国内のみに目を向けているだけではなく、これまで培った技術などを生かして国を超えて国際的に活躍し、貢献することが国や社会の活路を見出すことにつながるように思われるからです。

例えば、外国人市民、国際市民、世界市民、グローバル市民、地球市民、地域市民など大小を問わない地域の構成員などを表わす言葉や、企業市民などとも使うことができます。

「新しい公共」の担い手は国民も、市民も、住民も、一部の在日外国人市民も皆そうだと思いますので、あれか、これかの議論ではなく、適宜、使い分けることを提案します。

今回の座長提案では「Ⅱ.取組の進化に向けて」の（３）と（４）の項での国民という言葉をも市民にしたらいかがでしょうか。

以上